

**研究基盤 EXPO2021**  
**研究基盤協議会プレイベント 持ち込み企画①**  
**「若手技術職員×1年生ゼロ局員での政策対話@研究基盤 EXPO2021」**  
**報告書**

企画・報告者 文部科学省 梅津 太紀  
鳥取大学 横野 瑞希  
大阪大学 津々美 章子

## 1. 日時

令和3年1月29日 13時05分～14時05分

新型コロナウイルス感染症対策として、完全オンライン（Webex meeting）にて実施。

## 2. 本セッションの趣旨

研究基盤イノベーションは多様なステークホルダー（PI・教員・技術職員・事務職員・URA等）で成り立っている。しかし、政策立案ではこの多様性にまだ十分対応できていないのではないかと懸念されている。本セッションでは、大学技術職員組織研究会（※1）、近畿地区女性技術職員ネットワーク（※2）に所属する若手技術職員と文部科学省局横断・萌芽的政策検討チーム（通称：ゼロ局）（※3）に所属する1年目職員等にて政策対話を行い、これからの研究現場を支えていく若手技術職員と文部科学省の若手職員の間での人脈構築の場とするとともに研究基盤協議会への若手参画の契機とすることを目的とした。

なお、テーマは「お互いの立場、仕事内容を知る」とし、3つのグループに分かれてお互いの気づきや興味があることをファシリテーターが中心となってピックアップした。

---

※1：技術職員（施設系技術職員を除く）の組織体制、組織運営、人員構成、組織間交流、並びに技術の伝承など高等教育機関における技術支援体制の確立に貢献することを目的とする会。

※2：2019年に発足した大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワークを母体とし、大学間の垣根を超え活動範囲を近畿全域に展開したもの。ワークライフバランスなど多様な働き方を女性の視点から考え提唱すること、女性技術職員の幅広い分野での活躍の周知を図ることを目的としている。

※3：文部科学省の若手職員が省内外の幅広いステークホルダーと協働しつつ、その多様な強み（科学的・政策的知見や現場感覚等）や機動性・柔軟性等を活かしてゼロから1を生み出す「政策の苗床」（令和2年末に設置）。

### 3. グループワークの概要

#### ○まとめ

- ・研究基盤に関する情報、政策、行政側の思いについて、今まで認知できていなかった。
- ・技術職員のやりがいとして、現場でしか分かりえない細かい実験内容のサポート・工夫、近隣住民への還元を通じた地域貢献、学生を含めキャンパス全員とのつながりなどが挙げられるのではないか。
- ・カウンターパートと現場の知識を使って、政策等を作り上げていく。お互いをつなげていく場、情報提供が必要である。
- ・技術職員の新規採用が控えられる中、キャリアパス、俸給表、ジョブ型雇用、経営改革について、今後議論していきたい。
- ・江端さんに続く”インフルエンサー”を！研究基盤協議会でもっとお互いを知ってきたい。

#### ○現在の仕事に就いた理由（技術職員という存在を知らなかった。どうやって見つけたのか。）

- ・研究を続けたいと考えたとき、お世話になった方が技術職員だった。
- ・研究員としてよりも技術職員として研究のサポートをしたい。
- ・研究に憧れがあり、農場の方がすごくいい人だった。
- ・大学職員に元々興味があり、物理、電気も興味があって、いろいろ受けたところ、研究室配属のポストだった。（電気というカテゴリーで受けた。）
- ・自身が共用機器の元利用者で、学生の頃からお世話になっていた。リノベーションセンターでは普段から学生と接点があるため、知るきっかけになっているのではないか。
- ・学生の頃ロボコンに興味があり、その際にお世話になったのが技官の方だった。徹夜で付き合ってもらった。技術の楽しさや研究者の夢を叶える環境づくりに感動し、自分がしてもらった分、技術職員として返していきたいと思った。
- ・学生の頃は知らなかった。学生実験のときサポートしてくれた人や、植物園を管理していた人が技術職員であったことを後で知った。自分は化学系の仕事を鳥取で探して入った。触れあう学生の数は少ない。

#### ○いい仕事・仕事のやりがいとは

- ・仲間が楽しく、工夫しながら仕事ができる。
- ・研究がスムーズに進むこと。また、教育に関しても学生とのつながりの中で有意義な時間がある。
- ・技術職員としてキャンパス全員と関わることができる。
- ・研究委託される中で、現場でしか分かりえない細かい実験内容のサポートができる。
- ・研究成果を近隣住民の方々へ還元することで、地域貢献に携われる。

・カウンターパートと現場の知識を使って、政策等を作り上げていく。(文科省)

○技術職員がエンジニアって言われているけどどう？

- ・どっちでも良い。
- ・組織が勝手にそう言っているだけ。
- ・技術職員と言えば誰か分かるが、エンジニアって誰？という話もある。

○技術職員のキャリアパスは？

- ・マネジメントもやらないといけない。
- ・組織に縛られないようなものがよい。
- ・内々で盛り上がっている場合ではない。マネジメント力、プレゼン力など様々なスキルを身につけ、想像を超えていかなければならない。

○文科省のキャリアパスは？

- ・文科省は様々な分野があるので面白い。
- ・現時点では深く考えていないが、入省時にキャリアパスについて説明があった
- ・OJTで学んでいく過程であり、これから考えていく。

○行政官は、事務職員と話をする機会があるのか？

- ・部署によっては事務職員と話す機会が一切ないので、これから情報交換していきたい。
- ・部署として、つきあいはない。同級生であったら話すことはあるが。
- ・このイベントを通じて、こういう機会を持てるんだな、と実感。この部署だからできない(会えない)とかはない。

○技術職員の状況と危機感

- ・政策がどういうものか、本イベントをきっかけに知った。
- ・先週から EXPO を通して膨大な情報量を得ることができた。
- ・現場でサービスや装置のおもりをしているが、全然知らない。行政側はこういう思いでやっていたんだ、ということを知らなかった。
- ・EXPO で出てきたような情報を技術職員にどう伝えていくか。
- ・籠りっきりで、他の技術職員のこと知らない。
- ・発信しきれていない？行政官も？現場の声を聞くことも重要。お互いをつなげていく場や情報提供の方法を検討すべきではないか。
- ・技術職員はどのような情報が欲しいのか。
- ・技術職員であっても、部局によっては話を聞く機会もある。こういうことは実現が

難しい、と聞くことがあるが、なぜ難しいのか、分からなかった。

- ・職場では6年目で最年少。
- ・研究のサポートが求められている。
- ・あまり考えたことがない。今回勉強になった。
- ・大学の旗をふって保護者の案内をやっていると、自分は何をしているのだろうと思うことはある。平成26年を最後に、それ以降は技術部に一人も入っていない。技術職員の人数が減っていく中で何ができるか。一人職場であれば気付きも少ない。情報系だと一人でできない業務もあり焦る。教員からアイデアを出してもらうことはあるが、人がいない。危機感の強い大学もあるが、人、予算がつかないのが現状。
- ・技術職員を取り巻く問題、パフォーマンスを出せない問題は、経営に技術職員が絡んでいないため。ビジョンや戦略が教員のノリになっており、その人に委ねられている。技術職員をよく知らない教員であれば、知らない故になにもしてくれない。
- ・この場にいない人にこそ情報を伝えるべきではないか。(関心がある人はこういうのに参加している。) 横発信が大事。
- ・こうした場があったから初めて知った。行政側も動いてない、情報があるかもわからないといった状況だった。補助の立場でなく、先生と同じ立場で仕組みをつくり、職業として確立されるよう変えていきたい。
- ・ここ数年で研究基盤イノベーションが進んだ。技術職員にとって江端先生はインフルエンサーとして貴重な存在であり、時代を作れるのだと実感した。こういう人を持続可能するために、文科省はどうすべきか。
- ・技術職員は行1の俸給表のため、キャリアパスが難しい。年功序列でなく、ジョブ型のような観点が必要なのではないか。年俸制も。

#### ○ネットワーク（コミュニティ）について

- ・学部内ではコミュニティあるが、他は薄い。現在働いている研究室では、学会の参加や科研費にも挑戦させてもらえる。
- ・今回のイベントには話をいただいたので、参加した。コミュニティは、現在の仕事場にはあまりない。
- ・省内では、ゼロ局はもちろん、このように現場の方と知り合える機会や、政策等に早い時期から関わられる機会がある。引き続き気軽に連絡してほしい。(文科省)
- ・ぜひまた話をしたい。集まりたい。
- ・研究基盤協議会でもっとお互いを知っていききたい。

#### 4. 今後の展望

今回は「お互いの立場、仕事内容を知る」を目的としていたが、大学技術職員と行政官間のチャンネルの少なさ故、これまでお互いのことを十分認知できていなかったという事実が浮き彫りとなった。今後は、研究基盤協議会若手ネットワークを通じてお互いの考えを積極的に共有していくこととする。

また、若手ならでの視点から、技術職員を取り巻く環境に対しての意見がいくつか見られた。このような気づきは、今後の研究基盤協議会若手ネットワーク内での議論に着実に繋げていき、研究基盤協議会等適切な議論の場へと若手の意見を届けていくこととする。

なお、本セッションに参加した計17名の大学技術職員および文部科学省ゼロ局員等は、研究基盤協議会若手ネットワークのコアメンバーとして積極的に情報共有や対話を行っていくこととする。

#### 5. 本セッションの登壇者（令和3年1月29日時点）

##### 【大学技術職員組織研究会】

- ・ 稲角 直也（大阪大学理学研究科技術部）
- ・ 稲田 顕子（九州工業大学飯塚キャンパス技術部生物・化学技術班）
- ・ 服部 崇哉（名古屋工業大学技術部情報解析技術課（情報基盤センター勤務））
- ・ 廣瀬 孝三郎（琉球大学工学部技術部）
- ・ 横野 瑞希（鳥取大学技術部）

##### 【近畿地区女性技術職員ネットワーク】

- ・ 植原 邦佳（大阪大学接合科学研究所）
- ・ 江口 奈緒（大阪大学科学機器リノベーション・工作支援センター）
- ・ 津々美 章子（大阪大学工学研究科技術部（兼務先：低温センター吹田分室））
- ・ 松本 香（神戸大学大学院工学研究科技術室）
- ・ 安居 ゆかり（京都大学大学院農学研究科附属農場）

##### 【文部科学省】

- ・ 青山裕一（スポーツ庁政策課）
- ・ 梅津太紀（大臣官房政策課政策推進室）
- ・ 木戸拓実（研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室）
- ・ 黒田玄（研究開発局原子力課）
- ・ 古川晃（科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課）
- ・ 澤田夏樹（科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官（国際担当））
- ・ 山本真奈美（研究開発局原子力課）

【ファシリテーター】

- ・江端 新吾（東京工業大学）
- ・佐々木 隆太（北海道大学）
- ・中川 尚志（文部科学省大臣官房政策課政策推進室）

以上